長町病院理念 ◆ 患者のみなさまとともに“平等・安全・信頼”の医療をめざします！

民医連 公益財団法人 宮城厚生協会

長町病院だより

2020・3 No.87

発行責任者 ◆ 水尻 強志
〒982-0011
宮城県仙台市太白区長町３丁目７番26号
TEL 022-746-5161㈹ FAX 022-746-5114
http://www.m-kousei.com/nagamati/

小児科外来５月再開のお知らせ

外来運営委員会

近年、長町地区は新しいマンションが次々に建設され、子どもの数も増え、保育所も増えてきています。そのような中、２年前に小児科をお休みしなければならなかったことは大変心苦しかったのですが、このたび新しい医師を迎え再開できることとなり、職員一同ほっとしております。

小児科の対象は0歳から中学3年生まで、一般診療に加え乳児健診・予防注射も行います。また入院が必要な場合は迅速に他の病院と連携し対応させていただきます。

困っていることは何でも相談できるような外来を目指しておりますので、病気のことだけでなく子育ての悩みや発達のこと、また経済的なことなど、気になることは何でも相談して下さい。

また仙台南健康友の会と一緒に、孤立しがちな親御さんのための交流する場づくりも考えていきます。こどもふらっと塾（無料塾）のお知らせも以前と同様に行っていきます。

新しく生まれ変わる小児科外来にご期待ください！

医師挨拶

内 科
医 師 花木 安羅太
はなき あらた

みなさんこんにちは。半年という短い期間でしたが、小さいころ歩き回っていた長町病院で、医師として働くことができて大変嬉しかったです。まだまだ若輩者で慣れない部分も多く、みなさんにはご迷惑をおかけしたと思いますが、日々いろんなことに気づき、周りの人と相談することができた半年だったと感じております。

4月からはしばた協同クリニック、10月からは坂総合病院で働く予定です。いつになるかわかりませんが、成長して戻ってきたいと思っておりますので、その際は温かく迎えていただけると幸いです。本当にありがとうございました。

永年勤続表彰

40年勤続を振り返って

南４階病棟　看護師　大久保　敏子

今回永年勤続表彰を受けることが出来ました事、心から感謝いたしております。

私は長町病院に入職し、手術室、外科病棟、坂総合病院リハ病棟などを経て、現在は回復期リハビリ病棟に勤務しております。日々リハビリに励んでいる患者様の姿は、体力的に限界を感じている私に元気を与えてくれます。全介助だった患者様が自立して帰る様子を見て、ここで働くことができて良かったと思います。

回復期リハビリ病棟に入院する患者様は、病気やけがなどにより日常生活に支障をきたします。病気に対する不安を抱え、リハビリが辛いと感じる方もいらっしゃいます。そんな患者様に寄り添い、入院生活は楽しかったと思っていただけるような看護をしていきたいと思います。

これまで続けられたのは、諸先生方、上司の皆様、諸先輩方、スタッフの皆様のご指導とご支援のお陰であり、感謝の一言に尽きます。至らぬ点も多々あり微力ではありますが、今後も体力が続く限り努めてまいりたいと思っております。

30年勤続を振り返って

総務課　浜崎　恵美

30年を振り返ってみますと、院内保育所の保育士として20年、事務に変わり10年と多くの職員、そして子どもたちと関わることが出来ました。また、大きな病気もなく、勤続30年を迎えられて幸せに感じています。

院内保育所「つくし保育所」を知っている職員は少なくなってしまいました。産後休業・育児休業明け（私が勤め始めた頃は産後８週で復職がほとんどでした）でつくし保育所に子どもをあずけて、今も長町病院で働き続けている職員と一緒に働けるのは大きな励みになっています。

年齢を重ねるにつれ、新しい事を吸収するのは時間がかかり、大変だなあと感じますが、退職後の人生設計を模索しつつ、1日1日大切に仕事に向き合っていきたいと思います。

20年勤続を振り返って

地域連携・医療相談室課長　袴田　智子

1999年４月入職ですので、90年代最後の新入職員ということになります。入職当時は現在の北棟が建設中で、同じ年に道路を挟んでの病院引っ越しがありました。あのときピカピカだった北棟が20年の歳月を経て古びてきた様を見ながら、自分の来し方を振り返っています。

ソーシャルワーカーとして、たくさんの患者さんのご相談を受けて、共に悩み喜び歩んできた20年でした。20年前にはすべての人が生きやすい社会になれば私たちの仕事はなくなるのではと思っていましたが、残念ながらまだまだ忙しい毎日です。これからも患者さん、地域の皆さんと共に無差別平等の医療・介護・福祉の実現に向けて、頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

後期慢患合同交流集会に参加して

南３階病棟　武蔵　彩子

2月15日に坂病院で開催された後期慢患合同交流会に参加してきました。初めに協会内の血糖コントロール状況を沖本医師と各部署より報告いただきました。県連全体としては前年度よりHbA1cの値は減少傾向であったが、患者様・介護者共に高齢化してきているため今後も変動が予測される事、去年の大型台風の影響で病院受診が困難になり、他の病院を紹介した状況があったことなど、情報を共有することができました。

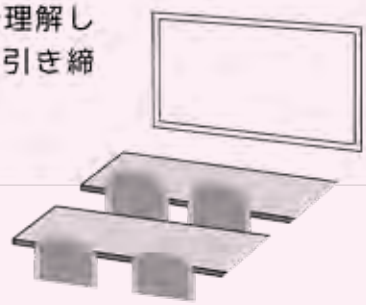
瀬尾利加子講師による講演会では医療現場で実際に働いてみて感じたことから、会社を立ち上げ社会連携づくりのために活動しているお話を聞きました。理想と現状のギャップが今の問題となっており、ギャップを埋めるために取り組むべきことが課題である。医療従事者だけでは限界になっており、異分野の方にも興味をもってもらうことが今後の高齢化社会に対応していく為に必要であることを学ぶことができ、今回研修に参加することができとてもよかったです。

2020 木 1/16

医療安全全体学習会報告

放射線室　杉山　淳

1月16日、医療安全に関わる職員全体学習会を行い以下３項目について約1時間半に渡り学習しました。①医薬品管理：毒薬・劇薬の管理、ハイリスク薬の容量確認と注意事項など。②医療機器管理：保守点検や職員研修の必要性など。③放射線管理：関連法令の紹介、被ばく管理と放射線防護の重要性などです。参加した職員はみな集中して聴き入り、業務の品質と安全性の向上に努める重要性を理解して、改めて身を引き締めていました。



院内学術運動交流集会

事務局長　松本　佑介

毎年恒例の学術運動交流集会が2月13日・20日の2日間に渡り開催されました。

今年度のテーマは『One Team　一人ひとりが幸せに生きるため私たちにできること』でした。出身地や文化などの違いを乗り越え「One Team」をスローガンに、一丸となり日本中に元気と感動を与えてくれたラグビー日本代表チーム。長町病院のスタッフもこのスローガンの下で頑張りたいという気持ちから「One Team」がテーマに入りました。また、世界中の困っている「一人ひとりが幸せに生きるために私たちにできること」は何だろうという意見が実行委員長の花木安羅太医師からあげられ、このテーマに決定しました。

2日間で21演題と多くの発表が行われ、活発に意見も交わされました。また、当日配ったアンケートにも各発表に多くの意見が寄せられ、実りのある交流集会になりました。発表者の皆さん、当日ご参加頂いた皆さん、そして開催まで多くのサポートを頂いた委員の皆さんにこの場をお借りして御礼申し上げます。

4月から泉病院事務長に異動になります。

地域・職員のみなさまお世話になりました！

事務長　花木　かよ子

民医連との出会いは、東大に通う大学4年生時、当時、東京民医連で医師・医学生担当をされていた先輩に何度か訪問いただき、無差別平等の医療、全国ワンチーム＝困難な事業所があれば、総動員で存続させる等のお話を伺い、民医連への参加を決意し、東京民医連大田病院に就職しました。結婚を機に、宮城民医連事務局、坂総合病院を経験し、第1子出産を機に、長町病院に赴任し、30年になります。4人の子らも全員　院内保育所で育てていただきました。当時、長町病院は玄関でスリッパに履き替える時代。現在1日200人程の外来患者さまですが、私が医事課長のころは1,000人という日もあり、手術もし、救急搬入数も市内5本の指に入るほどの急患受け入れをしていました。院外処方箋への移行、医事システムサーバーの長町への移設、口座振替、自動再来受付機の導入も医事課長時代。

医局事務課長時代には常勤医師最大の24名、基礎研修医の受け入れもできた時代でした。郡山・ながまち両訪問看護ステーション、ヘルパーステーションの立ち上げ、しばた協同クリニックや、若林クリニックの立ち上げに職員を送り出し、デイケアから通所リハ、訪問リハ、ケアマネ事業、メディカルフィットネスのびのびながまちの立ち上げ、仙台市の委託事業元気応援教室受託にもかかわりました。

東日本大震災時には附属クリニックの全壊に見まわれ、閉鎖となりましたので最後の事務長となりました。震災後は、長町病院の再建のみならず、あすとながまち応急仮設住宅の自治会のみまさまや長町・郡山地域包括支援センターとの連携や福島双葉町浪江町自治体からの原発被ばく検診事業の受託で復興支援にかかわらせていただきました。

長町病院再建後は、住宅型有料老人ホームはなみずきの開設もさせていただき、各種事業の存続が可能な状況で推移していることに安堵している自分がいます。

地域にねざし、無差別平等の医療・介護活動を全職員で団結し、誇りをもって、維持・拡大をしていっていただきたいと思います。お世話になりました。

県連看護介護活動研究交流集会

南4階病棟　看護主任　桑田　由樹

2020年2月1日（土）第41期看護介護活動研究交流集会に参加し、『民医連のめざす看護とその基本となるもの』を学んできました。事前課題の事例を元に、STEP1～5までの工程を毎回2～3人でディスカッションを交えながら行う活気のある交流集会でした。

事例は事実と実践を明らかにし、ステップアップ毎に社会の見方、捉え方を深め、「命」「日本国憲法」「民医連綱領」に置き換え考えていきました。その中で、最後は自分の『目指す看護』が自然と見えてきました。

今回の交流集会では、常に私たちの看護は看護の3つの視点（患者の立場に立ち、患者の要求から出発し、患者とともにたたかう看護）と、4つの優点（統合性・継続性、無差別性、民主性、人権を守る運動）が基本となっている事を、あらためて感じ考えさせられました。